

第5回 猪名川圏域河川整備計画懇談会

平成26年10月29日

兵庫県

1. これまでの経緯と今後の予定について

これまで4回の懇談会を実施し、第1回と2回は圏域の現状把握を行い、第3回から計画審議を行った。河川整備計画のうち利水と環境の考え方について審議を行ってきた。

これまでの経緯

第1回懇談会
【H23.3.23】

- ・懇談会の設立
- ・今後のスケジュール提示
- ・流域及び河川概要の説明

第2回懇談会
【H23.9.9】

現地視察

- ・現状と課題について説明
- ・現地視察

第3回懇談会
【H24.11.1】

利水と環境の考え方について審議

第4回懇談会
【H25.1.16】

今回及び今後の予定

第5回懇談会

- ・治水に関する現状と課題について説明

第6回懇談会

- ・整備箇所、概要について説明、審議
- ・河川整備計画(案)提示

第7回懇談会

- ・河川整備計画(案)とりまとめ

2. 前回の懇談会における委員からの指摘とそれに対する考え方

前回懇談会での指摘事項

魚類などの水生生物に対して、淵などの深みを確保するなどの配慮が必要である。

これまでの懇談会資料での「猪名川らしい河川景観」という表現は、「歴史的文化的な景観、川らしさを感じる風光明媚な景観」という表現にした方が具体的になる。

外来植物のアレチウリは、下流への拡散が懸念されるため配慮が必要である。

環境は、生態系、景観、親水の3つを一体のものと捉えることが必要で、工事段階から住民を巻き込んだ形で河川整備を考えるなど住民の応援、協力についても留意する必要がある。

環境の目標については、重点的に対策をとる場所を示したり、高額のコストをかけない環境対策を盛りこむなどの配慮も必要である。

考え方

第4回懇談会資料において、水生生物への配慮事項について提示させていただいている。
また、上記の配慮事項は河川整備計画の本文を検討する際に反映する。

表現については、指摘事項を踏まえ、河川整備計画の本文を検討する際に反映する。

前回の懇談会のときに留意すべき事項として理解している。内容によっては、関係機関の協力を得ながら進めていく必要があると考えている。

3. 河川整備計画で設定する項目

第5回以降の審議項目

河川整備の目標

- 河川整備計画の対象区間、対象期間
- 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

- 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
- 河川環境の整備と保全に関する目標

どの区間を
どの期間で

治水目標

利水目標

環境目標

第3回と第4回で審議

河川整備の実施に関する項目

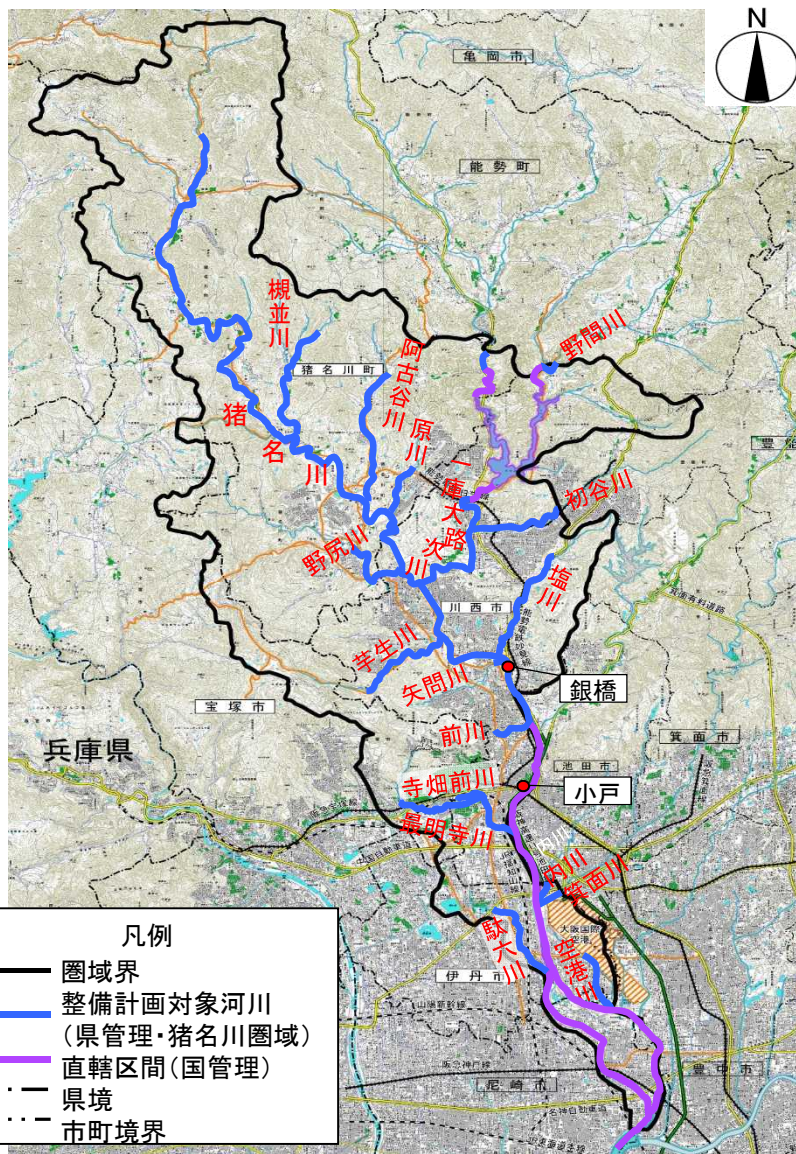
- 河川工事の目的、種類及び施行の場所
- 当該工事による主要な河川管理施設の機能
- 河川の維持の目的、種類、施行の場所

どう整備
する

4. 前回までの経緯(利水目標)

第4回懇談会資料より抜粋

1. 猪名川圏域河川整備計画対象河川と流域



- 猪名川圏域の河川は、猪名川(指定区間：川西市滝山地先より上流)、槻並川、阿古谷川、原川、野尻川、一庫大路次川、野間川、初谷川、芋生川、矢間川、塩川、前川、最明寺川、寺畑前川、内川、箕面川、駄六川、空港川の18河川からなる。
- 圏域は伊丹市、宝塚市、川西市、猪名川町(川辺郡) 3市1町にまたがっており、その面積は176km²である。

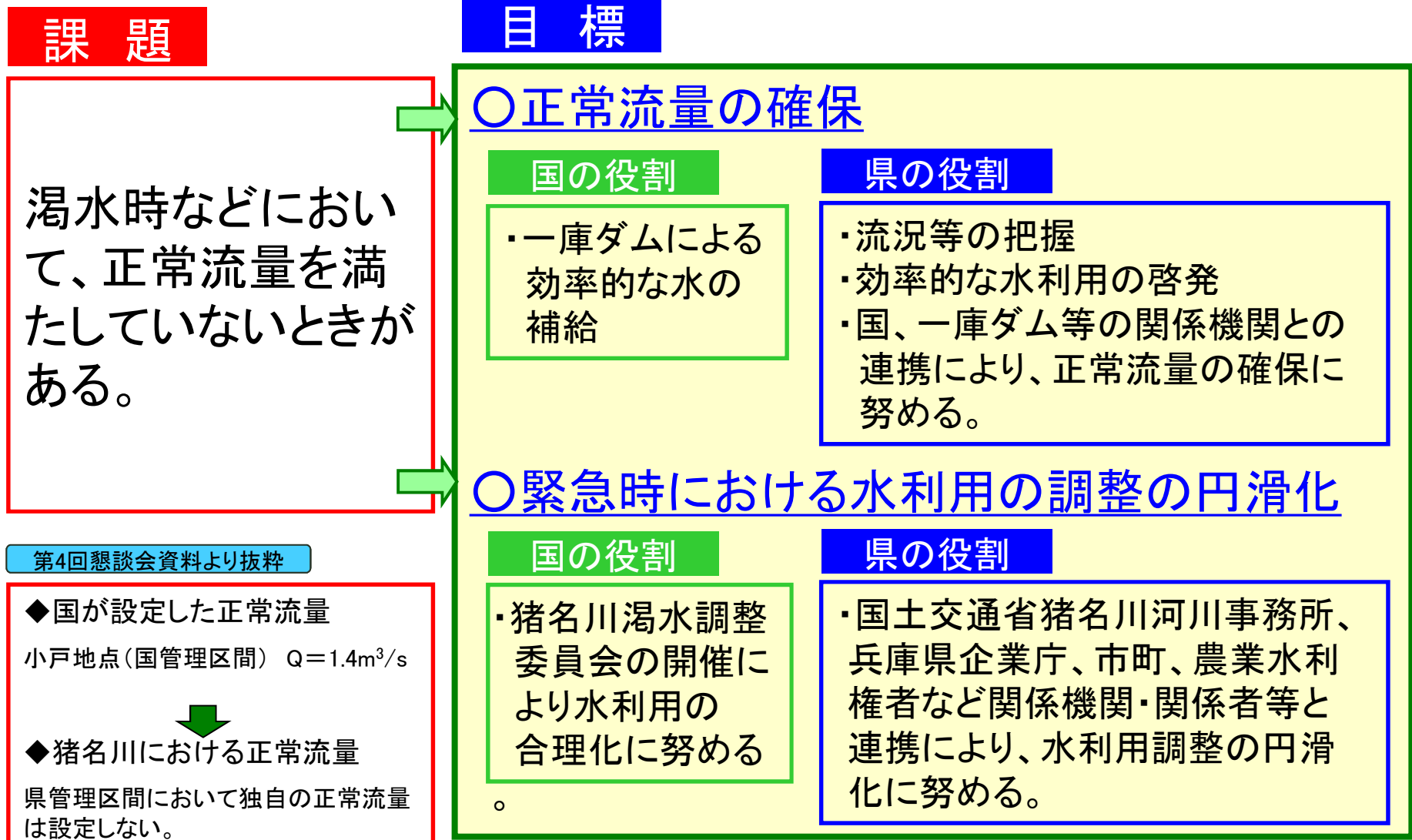
◆ 県管理区間延長

河川名	河川延長(m)	河川名	河川延長(m)
いながわ猪名川	24,555	やとうがわ矢間川	300
つくなみがわ槻並川	4,080	しおかわ塩川	2,530
あこたにがわ阿古谷川	4,650	まえかわ前川	1,300
はらがわ原川	1,600	さいみょうじがわ最明寺川	2,686
のじりがわ野尻川	1,800	てらはたまえかわ寺畑前川	1,130
ひとくらおおるじがわ一庫大路次川	2,686	うちかわ内川	475
のまがわ野間川	500	みのおがわ箕面川	1,091
はつたにがわ初谷川	2,920	だるくがわ駄六川	3,300
いもおがわ芋生川	3,000	くこうがわ空港川	1,760

4. 前回までの経緯(利水目標)

第4回懇談会資料より抜粋

5. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標



第4回懇談会資料より抜粋

◆国が設定した正常流量
小戸地点(国管理区間) $Q=1.4\text{m}^3/\text{s}$

↓

◆猪名川における正常流量
県管理区間において独自の正常流量は設定しない。

【猪名川渇水調整委員会】
・管理者と利水者で構成される。
・渇水時における水利用の調整に関する事項の協議を行う。

4. 前回までの経緯(環境目標)

第4回懇談会資料より抜粋

7. 河川環境の整備と保全の目標

【生態系】

○治水と調和した河川環境の保全・再生による生物多様性の確保

- ・必要な河積の確保を優先した上で、重要な河川環境である 露岩、瀬・淵、水辺の植生及び河畔林等の可能な限りの保全・再生を図り、生物多様性の確保に努める。・・・(工事区間における目標)
- ・河川横断工作物等による生物への移動阻害がある場合には、必要に応じて魚道による移動の連続性の確保に努める。
- ・外来種による生物多様性への影響や分布状況を把握し、関係機関・住民等との連携を図りながら、分布拡大抑制等に努める。

【水文化・景観】

○川に関連する歴史文化的な景観、川らしさを感じる風光明媚な景観の保全

- ・必要な河積の確保を優先した上で、川に関連する歴史文化的な景観や土木遺産、ならびに川らしさを感じるような風光明媚な景観の保全に努める。・・・(工事区間における目標)

【親水】

○親水性に配慮した水辺の確保、良好な水質の維持

- ・水辺での散策、水遊び等の快適さを感じる利用ができるよう、現在の利用状況、地域の要望等を踏まえて、地域の人々の親水体験や活動の場となるような水辺の確保に努める。
- ・地域住民の河川とのふれあいなどを考慮して、流域全体で連携しながら、良好な水質の維持に努める。

第1章
第2節 河川の現状と課題(治水)

5. 治水の現状と課題

豪雨による被害状況

洪水被害

主要な豪雨時の被害状況を以下に示す。

	発生年	要因	被害状況
戦後第三位降雨 (138mm)	昭和13年7月3日～5日	梅雨前線	死者8人、負傷者1人、全壊流失162戸、半壊94戸、 床上、床下浸水8,408戸、田畑1,678ha冠水
	昭和28年9月22日～25日	台風13号	負傷者12人、全壊流失41戸、半壊30戸、 床上浸水1,080戸、床下浸水3,910戸、田畑1220ha冠水
戦後最大降雨 (242mm)	昭和35年8月29日～30日	台風16号	負傷者11人、全壊流失25戸、半壊49戸、 床上浸水1,807戸、床下浸水2,541戸、田畑454ha冠水
戦後第二位降雨 (154mm)	昭和42年7月7日～9日	台風7号くずれ 梅雨全線	死者2人、負傷者100人、全壊流失41戸、半壊57戸、 床上浸水17,653戸、床下浸水75,779戸、田畑2,120ha冠水
	昭和43年8月27日～29日	台風10号	床下浸水51戸
	昭和47年7月9日～12日	前線	半壊2戸、床上浸水55戸、床下浸水2,262戸
	昭和47年9月14日～16日	台風20号	全壊流失3戸、半壊6戸、 床上浸水95戸、床下浸水398戸、田畑47ha冠水
	昭和58年9月24日～28日	台風10号	半壊8戸、 床上浸水353戸、床下浸水2,854戸、田畑39ha冠水
戦後第四位 (133mm)	平成元年9月2日～3日	秋雨前線	半壊4戸、 床上浸水2戸、床下浸水44戸
	平成6年9月5日～9日	伊丹豪雨	床上浸水1,365戸、床下浸水2,002戸（猪名川町を除く）
	平成9年7月2日～18日		床上浸水25戸、床下浸水63戸（猪名川町・伊丹市を除く）
	平成9年8月3日～13日	台風11号	床上浸水56戸、床下浸水274戸（猪名川町を除く）
	平成11年6月22日～7月4日		床上浸水25戸、床下浸水167戸（猪名川町を除く）
	平成16年10月20日	台風23号	床上浸水8戸、床下浸水59戸
	平成22年7月8日～17日	梅雨前線豪雨	床下浸水2戸、田畑0.01ha冠水（伊丹市、川西市）
	平成24年7月20日～22日	豪雨	床下浸水15戸、田畑0.04ha冠水（伊丹市、川西市）
近年の代表洪水 (127mm)	平成25年9月15日～16日	台風18号	床下浸水1戸（猪名川町）
	平成26年8月9日～10日	台風11号	一部損壊5戸、床上浸水4戸、床下浸水30戸（猪名川町・川西市）

出典)平成16年までの資料:被害は水害統計、ただし、S13、S28、S35は「淀川水系河川整備基本方針」「基本高水等に関する資料【淀川編】、雨量は国土交通省調べ。

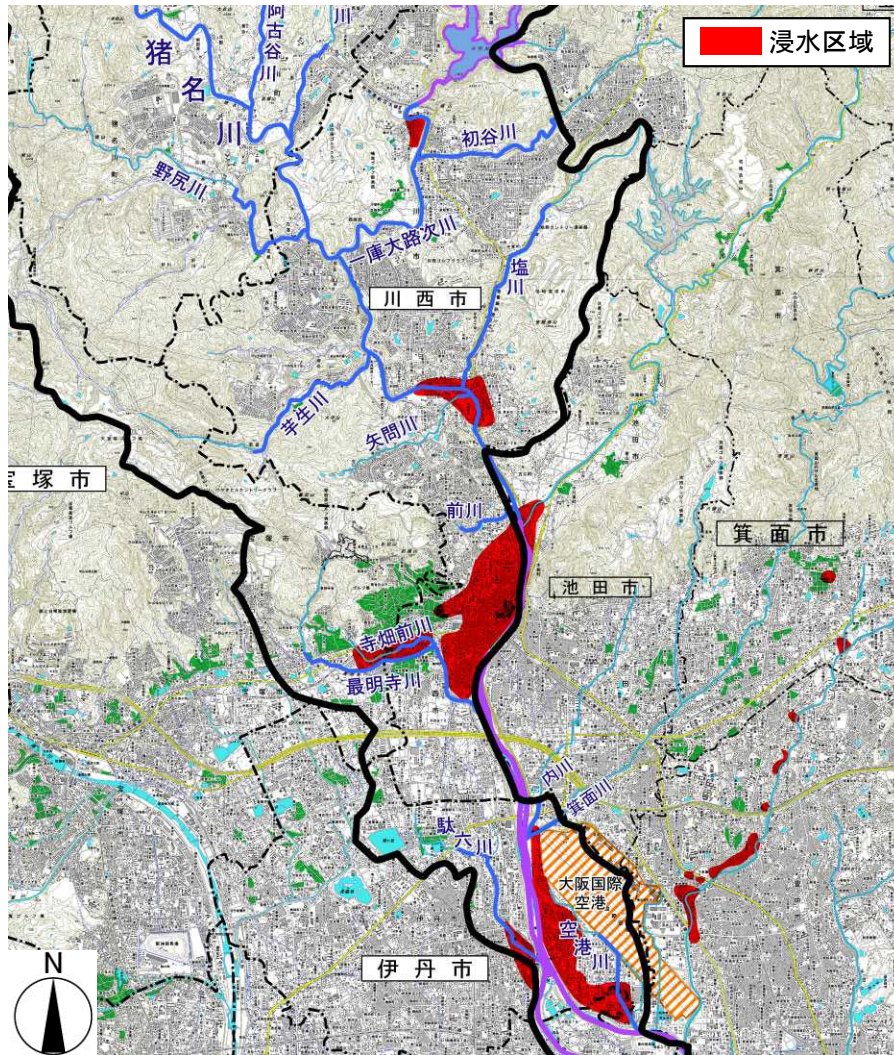
平成24年までの資料:被害は水害統計 平成25年～26年の資料 :兵庫県公表資料

()は9時間雨量

5. 治水の現状と課題

豪雨による被害(昭和42年)

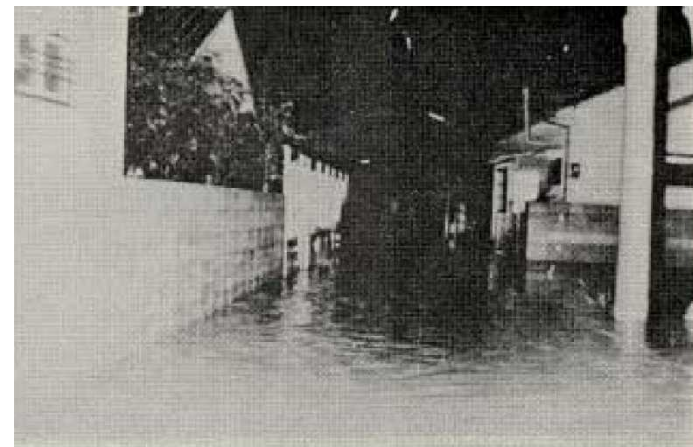
洪水被害



昭和42年7月豪雨による浸水範囲

昭和42年7月の豪雨

- ・台風7号くずれの低気圧に刺激され、西日本に停滞していた梅雨前線が9日朝から活発な活動を始め、猪名川流域では最大日雨量179mm、最大時間雨量33mm(小戸上流域平均)の降雨がもたらされた。
- ・全壊流出41戸、半壊57戸、床上浸水17,653戸、床下浸水75,779戸



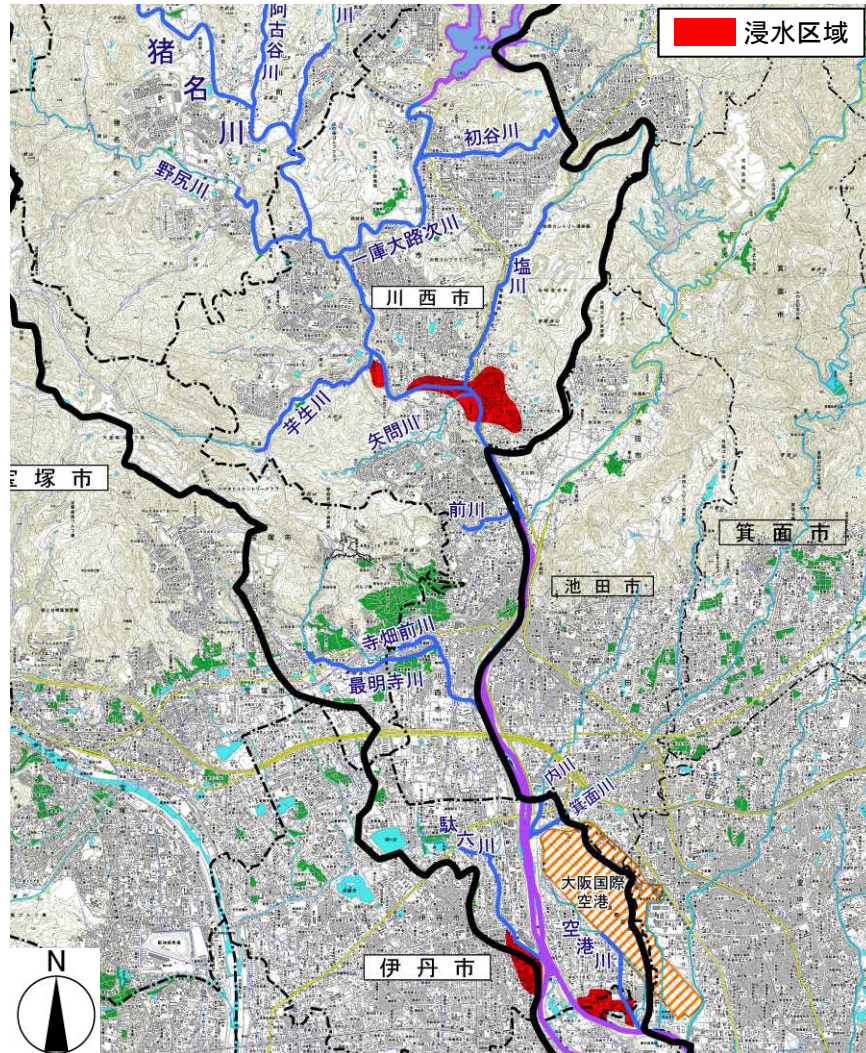
泥海と化した新興住宅街(川西市 寺畑)

(出典: 淀川水系流域委員会 第13回猪名川部会資料、平成14年8月)

5. 治水の現状と課題

豪雨による被害(昭和58年)

洪水被害



昭和58年9月豪雨による浸水範囲

昭和58年9月の豪雨

- ・台風10号が西日本に停滞している秋雨前線を刺激し、猪名川流域では最大日雨量135mm、最大時間雨量30mm(小戸上流域平均)の降雨がもたらされた。
- ・半壊8戸、床上浸水353戸、床下浸水2,854戸、田畑39ha冠水



川西市多田桜木1丁目の浸水状況



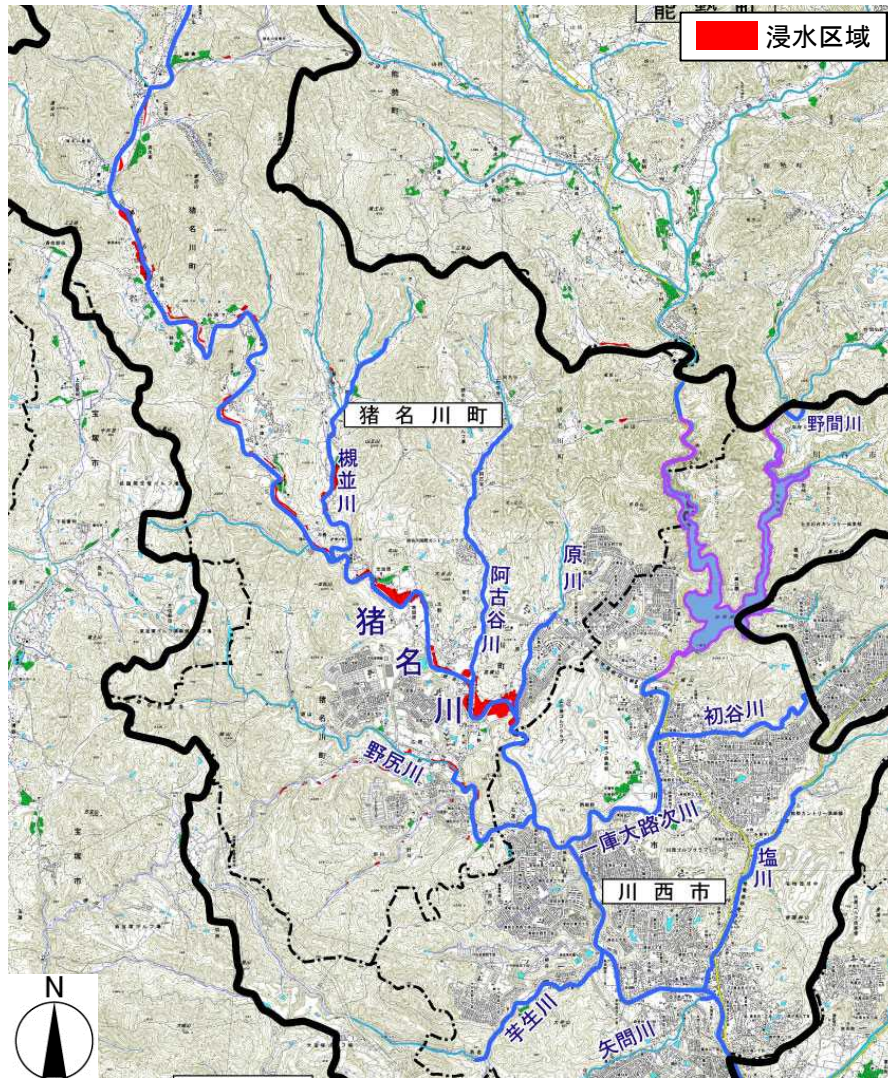
能勢電鉄鼓ヶ滝駅付近の浸水状況

(出典: 淀川水系流域委員会 第1回猪名川部会資料、平成13年5月)

5. 治水の現状と課題

豪雨による被害(平成16年)

洪水被害



平成16年10月台風23号による浸水範囲

平成16年10月の台風23号

- ・台風が西日本に上陸した10月20日は、九州地方から関東地方にかけての多くの地点で、これまでの日降水量の記録を上回る大雨となった。猪名川流域では、最大日雨量138mm、最大時間雨量24mm(小戸上流域平均)の降雨がもたらされた。
- ・床上浸水8戸、床下浸水59戸



猪名川本川 多田大橋下流区間の出水状況

5. 治水の現状と課題 本川上流

洪水被害

上流(猪名川町域)の一部区間は比較的流下能力が低いことから、大雨等により浸水被害が発生している。
(写真は平成26年8月の豪雨時のもの)



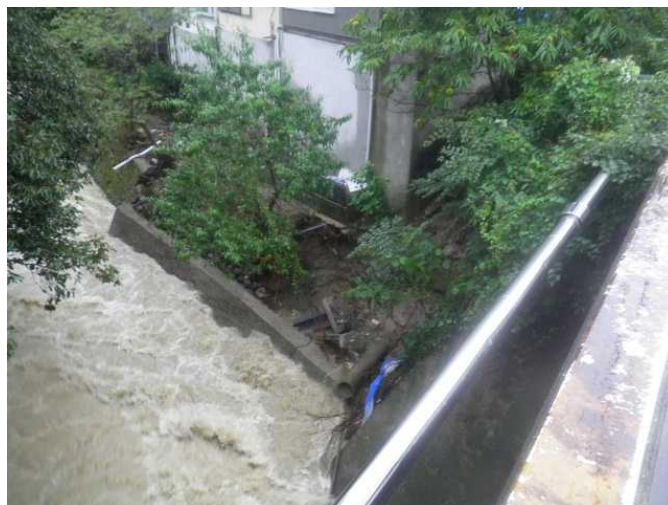
5. 治水の現状と課題 野尻川

洪水被害

野尻川では河道の断面が不足している箇所があり、浸水被害が発生している。(写真は平成26年8月の豪雨時のもの)



※浸水イメージ



5. 治水の現状と課題

駄六川

洪水被害

駄六川では護岸が老朽化していることから、施設被害が発生している。
(写真は平成26年8月の豪雨時のもの)



5. 治水の現状と課題

現状

本川

- ◆銀橋から多田大橋付近までの区間は比較的流下能力が低いことから、多田地区では、昭和42年、昭和58年等の洪水時に大規模な浸水被害が発生している。
- ◆銀橋下流の右岸道路(県道川西篠山線)は、河川に対し路面高が低い区間があり、平成16年台風23号等、洪水時に頻繁に冠水している。
- ◆上流(猪名川町域)の一部区間は比較的流下能力が低いことから、平成16年の大雨等により浸水する等、しばしば浸水被害が発生している。

支川

- ◆野尻川等では、平成16年等の洪水時に浸水被害が発生している。
- ◆本川の背水により、浸水が懸念される区間がある。

課題

- ◆流下能力向上対策を進めていくにあたっては、上下流間や本支川間の治水上のバランスに十分留意する必要がある。
- ◆河道整備と並行し、流域整備計画に基づく総合治水対策を、関係市町と連携の上、進めていく必要がある。

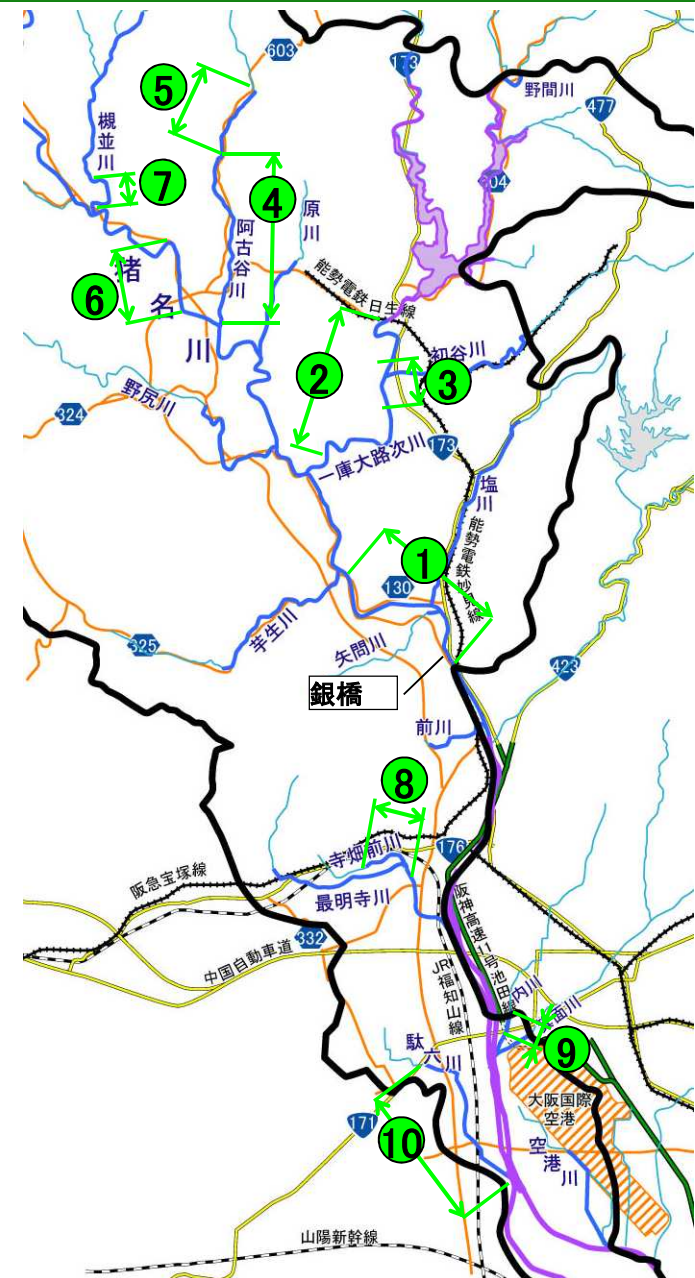
5. 治水の現状と課題 猪名川圏域の河川の概要

河川改修事業の経緯

・既往の河川改修事業について、計画諸元と位置を示す。

改修計画諸元

河川名	事業名	実施年度	延長(m)
① 猪名川	総合治水対策特定河川事業	S59～	2,970
② 一庫大路次川	総合治水対策特定河川事業	S54～H25	2,910
③ 一庫大路次川	河川局部改良事業	S50～S53	1,180
④ 阿古谷川	S48河川等災害関連事業	S48～S51	2,800
⑤ 阿古谷川	S51河川等災害関連事業	S51～S54	1,550
⑥ 猪名川	S47河川等災害関連事業	S47～S50	1,400
⑦ 槻並川	河川局部改良事業	S52～H5	955
⑧ 寺畑前川	総合治水対策特定河川事業 床上浸水対策特別緊急事業	H11～H22	940
⑨ 内川	河川局部改良事業	H元～H7	340
⑩ 駄六川	総合治水対策特定河川事業	S54～H18	1,830



5. 治水の現状と課題

近年の改修事業の様子

猪名川 多田院工区(県道付替、護岸整備)



一庫大路次川 護岸整備



矢問川 本川の背水対策(堤防・護岸整備)



寺畑前川 地下調節池

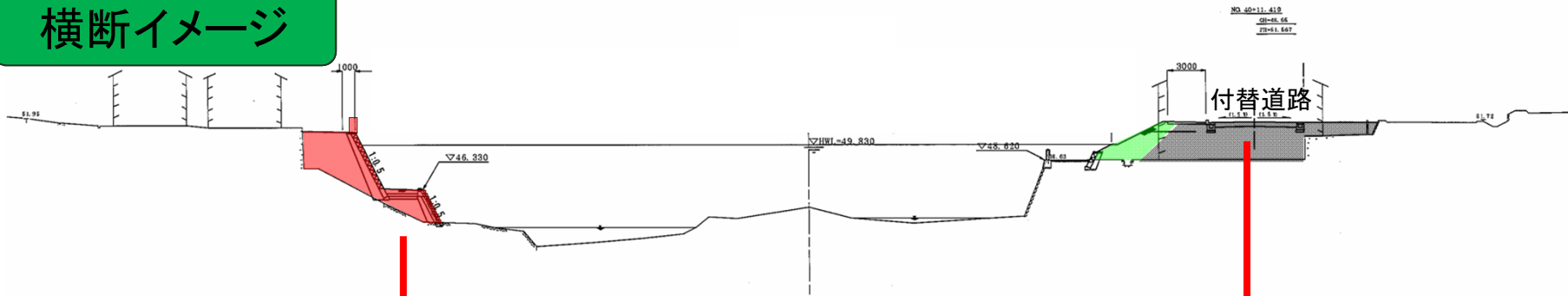


猪名川 多田院工区(県道付替、護岸整備)

改修の概要

◆河川からの浸水対策として右岸側の県道付替えを実施するとともに、左岸側の護岸整備を行っている。

横断イメージ



護岸整備



県道付替

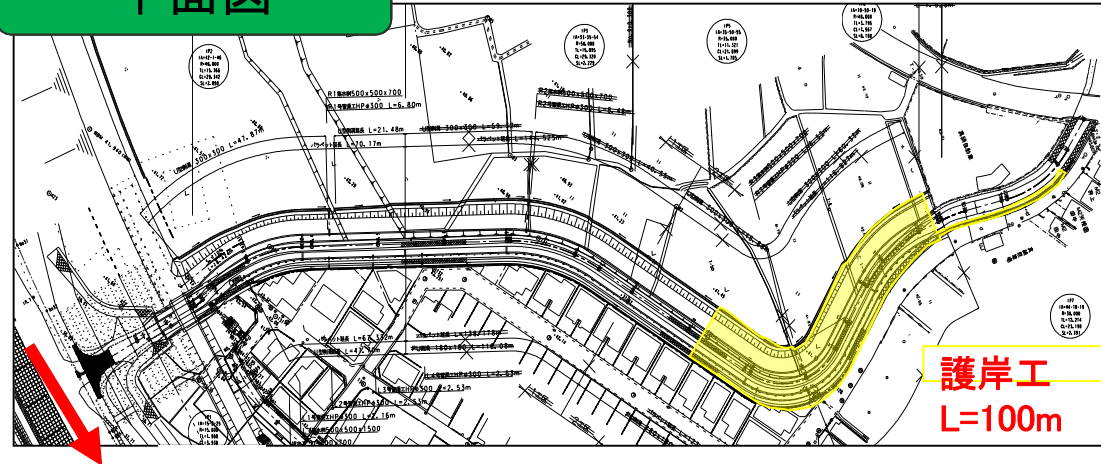


矢問川 本川の背水対策（堤防・護岸整備）

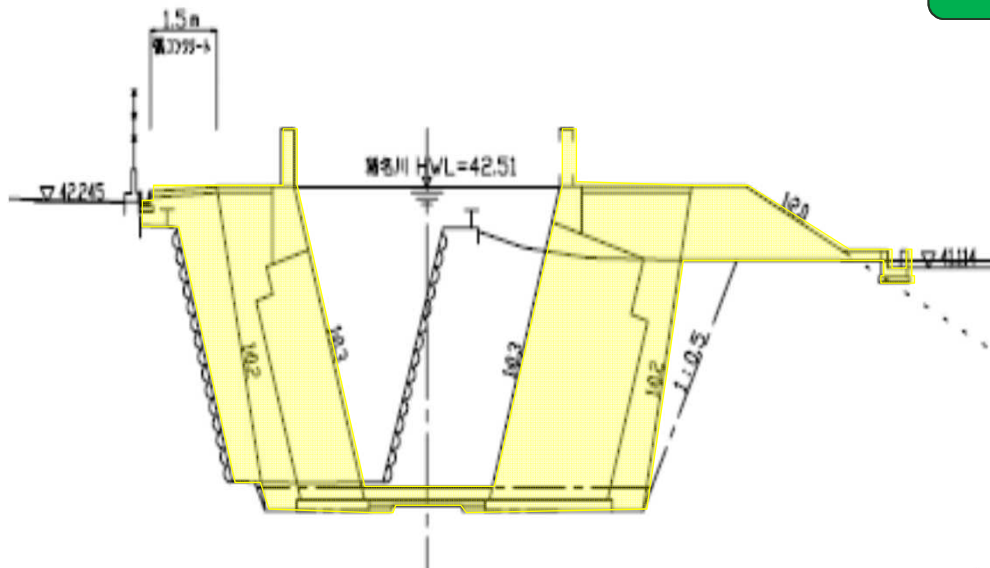
改修の概要

◆猪名川本川の背水による浸水を解消するために、堤防及び護岸整備を行っている。
(平成26年11月完了予定)

平面図



横断イメージ



護岸整備



寺畑前川 調節池

改修の概要

◆平成9年の集中豪雨により、床上浸水を含む甚大な被害が発生したことから、河床掘削による河道断面を確保するとともに、地下調節池を整備している。

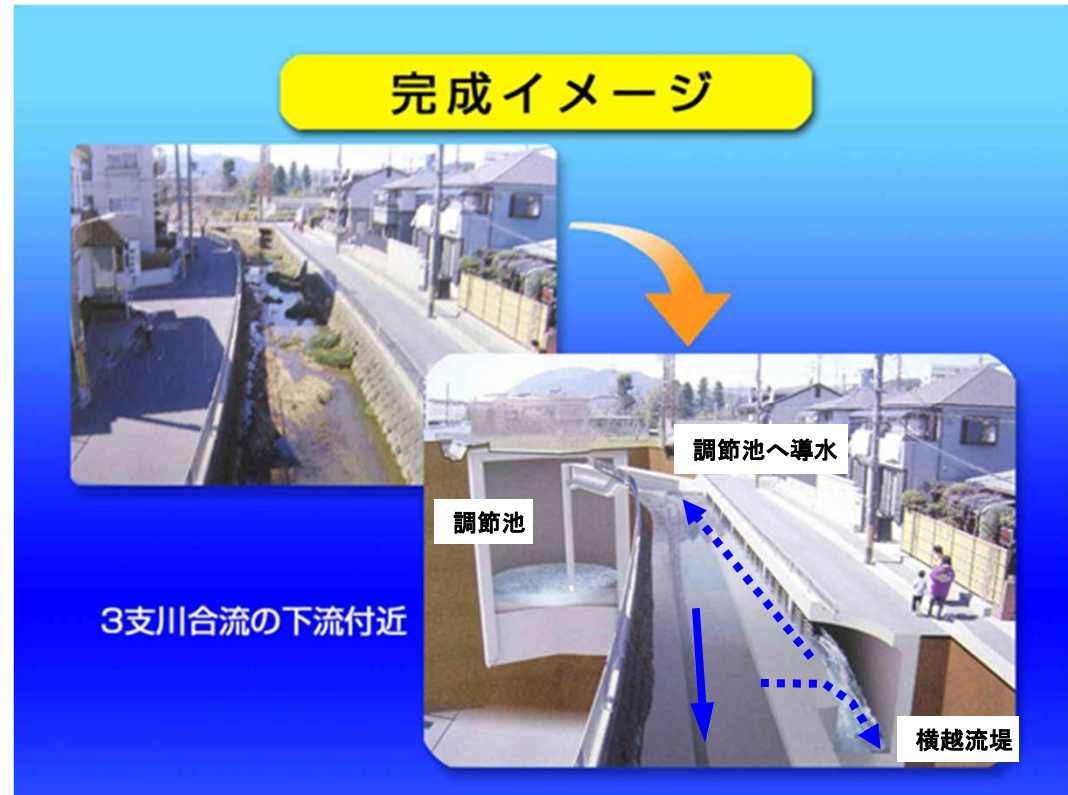
【H9年8月の浸水被害】

床上浸水： 54戸

床下浸水： 167戸



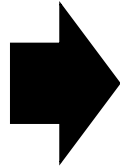
調節池の整備
(19,400m³貯留)



寺畑前川 調節池

施設の効果

◆平成26年8月24日豪雨時など、川西市密集市街地の地下調節池に一時的に雨水を貯め、住宅への浸水を回避した。

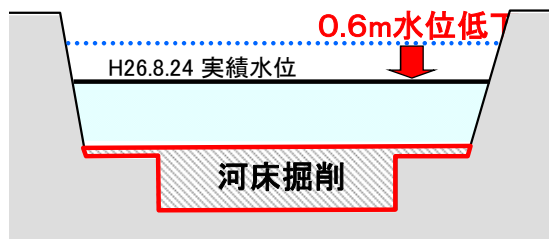


地下調節池に
25mプール
36杯分
の雨水を貯留

整備効果

整備前と比較して、0.6m水位が低下し、洪水を安全に流下できました。

- 調節池に約19,400m³を貯留
- 河道断面が約1.4倍に拡大



6. 治水に対する考え方

計画的に河川整備を進める場合について

- ◆河川整備は下流から上流へ向かって整備を進めていくことが基本であるが、できるだけ早く上流区間の整備に着手するため、暫定的な整備目標を定めて段階的に流域全体の治水安全度向上を図っていく。
- ◆家屋の浸水被害を防止できる区間を優先し、上下流や本支川の治水バランスに留意して工事のメニューや施工の順序やタイミングを定める。
- ◆これまで整備してきた工事に手戻りが生じないように、既定計画と整合を図って効率的・効果的に河川整備を進める。

局部的に河川整備を進める場合について

- ◆家屋や道路の浸水被害が発生する箇所については、下流の区間に悪影響を及ぼさない範囲で、局所的な水防対策を実施していく。

6. 河川整備計画の目標

1. 対象区間

- ◆猪名川圏域河川整備計画の対象区間は、猪名川圏域に位置し、県が管理する全ての法定河川とする

2. 対象期間

- (検討中)
 ※河川工事の規模等を踏まえ、20～30年の期間で設定見込み。

3. 整備計画の適用

- ◆本河川整備計画は、「“ひょうご・人と自然の川づくり”基本理念・基本方針」に配慮し、地域の社会状況、自然状況、河道状況に配慮し、段階的な整備を効率的かつ効果的に実施することを目的とする。
- ◆策定後にこれらの状況の変化や新たな科学的知見が得られたり、技術の進歩等の変化が生じた場合には、適宜、本整備計画を見直すものとする。

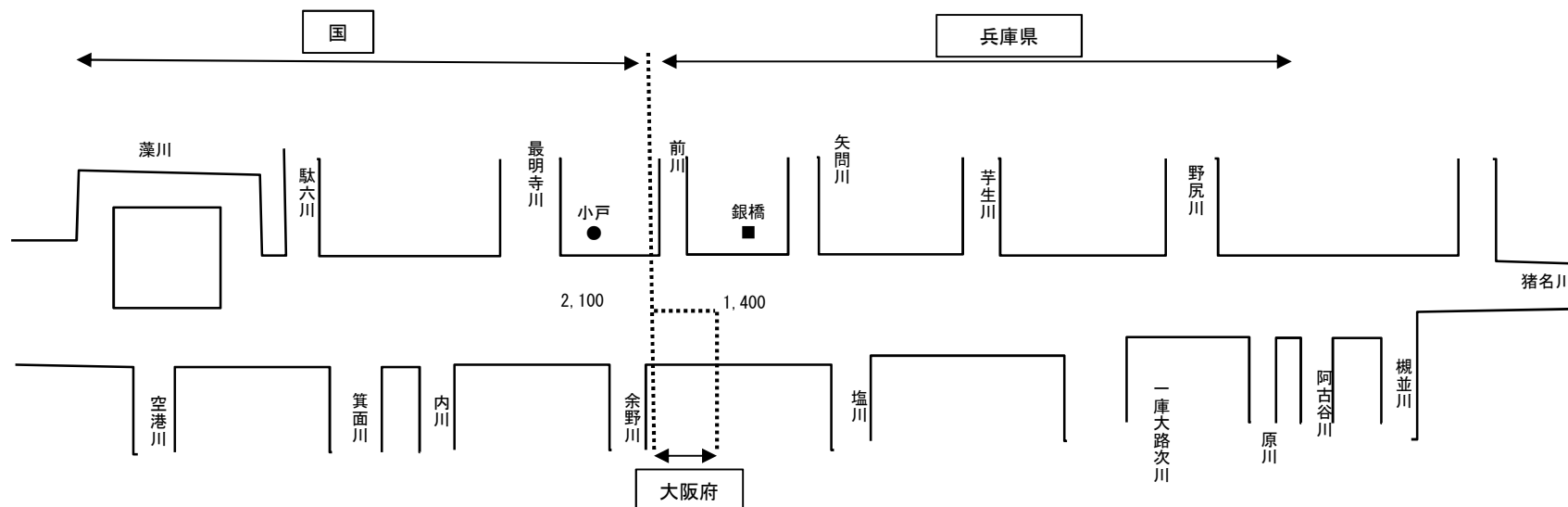
河川名	河川延長(m)	河川名	河川延長(m)
いながわ 猪名川	24,555	やとうがわ 矢間川	300
つくなみがわ 槻並川	4,080	しおかわ 塩川	2,530
あこたにがわ 阿古谷川	4,650	まえかわ 前川	1,300
はらがわ 原川	1,600	さいみょうじがわ 最明寺川	2,686
のじりがわ 野尻川	1,800	てらはたまえかわ 寺畑前川	1,130
ひとくらおおろじがわ 一庫大路次川	2,686	うちかわ 内川	475
のまがわ 野間川	500	みのおがわ 箕面川	1,091
はつたにがわ 初谷川	2,920	だろくがわ 駄六川	3,300
いもおがわ 芋生川	3,000	くこうがわ 空港川	1,760

7. 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

1. 整備計画目標流量

本川

◆猪名川本川の河川整備計画で目標とする流量は、下流とのバランス、既往洪水、流域の特性、既定計画との整合性等を考慮し、銀橋地点で1,400m³/sとする。



河川整備計画目標流量配分(猪名川)

支川

(本川との整備バランス等を踏まえ精査中)

2. 改修途上の対応

◆情報伝達体制や警戒避難体制の整備を行うとともに、ハザードマップ活用の支援や防災意識を高める取り組みを行うなど、情報の提供と共有による地域住民主体の防災活動を支援し、総合的な被害軽減対策を、関係機関、住民等と連携して推進する。